

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. D-71

部門名: 校内研修プログラム開発・実践部門	エントリー名: 鳥取大学附属特別支援学校 高田大輔 平成30年度第1回次世代リーダー育成研修
活動名: 学部経営の連携と充実 ～学校経営方針に基づく理想の共有～	
解決すべき課題: 学校教育目標と各学部・科教育の理解から、児童生徒の今と将来を考えた指導支援へ 各学部・科が経営案を作成し、その方針に沿って児童生徒の指導支援にあたっている。しかし、教職員の各学部・科教育のつながりや連携を意識した取組は十分とはいえない。この課題の解決に向けては、各学部・科教育の相互理解を深め、学部・科段階的な教育の位置づけについて共通理解を図ることが必要と考えた。そこで、生活年齢や発達段階に応じた教育を学部・科段階的に検討し、学部・科相互に理解することで、本校14年の教育を見通して実践を考えると、全職員体制の学校経営の充実につながると期待して計画した。 ※本校は、小学部、中学部、高等部本科、高等部専攻科の4学部・科を設置して14年の教育を構成	
目標・方針: 通常の授業研究に終始しないよう、研究会ごとの設定(目的、協議の形態)を明確に I 各学部・科の教育を理解する: 『校内学習公開及び事後研究会』(各学部・科1回ずつ、全4回) 1) 事前読み合わせ …各学部・科の教育的意図の理解を目的にした資料の読み合わせを行う 2) 校内学習公開 …公開学部・科の学習を参観して、教育的意図と実践を確かめる 3) 事後研究会 …各学部・科グループが、学部・科間の教育のつながりやちがいを検討する II 本校14年の教育を考える: 『全職員による協議』(10月29日(月)) 全学部・科の教育を連ねて並べ、全職員で本校14年の教育を学部段階的に考える	
活動内容: 教職員一人一人の意見表明を促す小集団協議から全体協議へ 事後研究会 それぞれの学部・科が公開学部・科との教育のつながりやちがいについて協議し、模造紙に記録した。予め模造紙には「学部・科児童生徒のライフステージ」、「学部・科のめざす児童生徒像」、「焦点をあてる教育内容」などを記し、目的に沿った協議が充実するための工夫を行った。(図、写真1、写真2を参照) 全職員による協議 本校14年の教育について、教職員個々の意見交換にとどまらないよう、学部・科ごとに協議した内容を報告し合い、その上で全職員による協議を行った。(図、写真3、写真4を参照)	
活動の成果 職員の声 「事後研究会の目的が分かりやすく、各学部・科教育のつながりやちがいに視点をあてて協議できた。これまでの研究の取組とちがい、学校の全体像と各学部・科の教育的意図が分かった。」「学校教育目標をもとに各学部・科教育を連ねて学部・科段階的にとらえるという作業は、個々の裁量で簡単にできるのではなく、全職員による協議の機会は意義深い。」「生活年齢や児童生徒の実態を踏まえて学部・科段階的にとらえたことで14年の教育の発展性が見えた。14年の教育に対する見通しがもてるようになり、教師が児童生徒の卒業・修了後に向けた指導支援を焦ることなく、それぞれの学部・科段階を意識して、心理的余裕をもって実践に向き合うことができる。」 研究の成果 ライフステージに応じた一般的発達と児童生徒一人一人の発達段階の双方から、多角的に児童生徒を理解する視点を得た。各学部・科の視点から、発達に対する理解を深めることができた。	
アピールポイント(アイデアや工夫) ・各学部・科の研究や教育的意図を尊重した検討ができるよう、事前に研究会の設定について共通理解を図った。(意図を把握し、その実現に向けて語り合う「ロマン・プロセス・アプローチ」を応用した研究会の設定) ・教職員一人一人が学校全体の教育を見通して実践を充実させることが、学校経営の充実へと導く。 ・特別支援学校における学部間連携に関する課題解決の取組として、有効である。	

図 『校内学習公開及び事後研究会』から『研究会議』への流れ(下線:ロマン・プロセス・アプローチを応用)

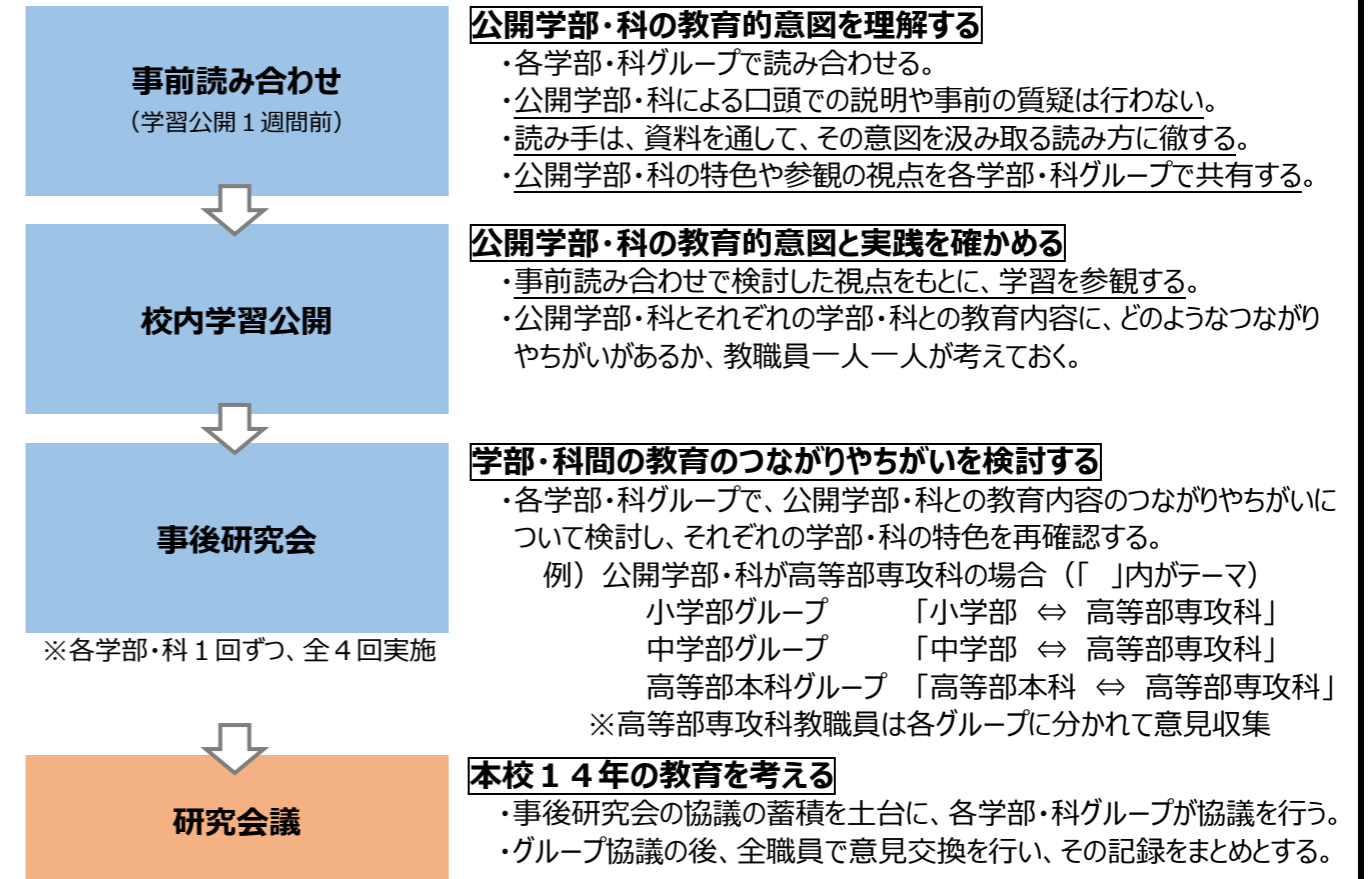


写真1 事後研究会の様子



写真2 小学部グループの記録

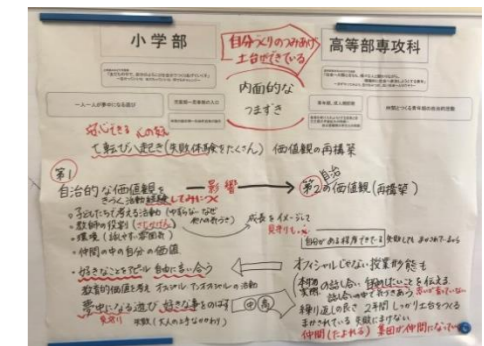


写真3「本校14年の教育を考える」協議の様子



写真4「本校14年の教育を考える」グループ記録



【参考】太田正己(2010)『RP法で特別支援教育の授業を効果的に高める』黎明書房。